

# 学部・大学院 トピックス

比較文化学科

## 東京文化事業 臨地研修

比較文化学科 教授  
人間文化研究科長  
宮坂 正英

世界の人々に届ける仕事を  
実現するための調査、企画、  
開発、営業や経営情報の管  
理、マネジメントなどのビ  
ジネスノウハウを身に付け  
ることも大切です。

今日、社会の様々な分野  
において歴史、文化、芸術  
に対する深い理解と、現代  
ビジネスに通用する実践的  
知識の両方を身に付けた人  
材が求められています。芸  
術や文化に関する高い専門  
性と、芸術や文化をイベン  
トとして社会に提供するス  
キルは、博物館や美術館な  
どの文化施設のみならず、  
マスコミをはじめ様々な企  
業でも需要が高まりつつあ  
ります。総合的な視野を持  
つためには、まず歴史、文  
化、芸術に関わる基礎知識  
を学び、感性を磨くことが  
必要なことは言うまでもあ  
りません。その上で、歴史・  
文化・芸術の素晴らしさを

世界の人々に届ける仕事を  
実現するための調査、企画、  
開発、営業や経営情報の管  
理、マネジメントなどのビ  
ジネスノウハウを身に付け  
ることも大切です。



日本テレビ放送網にて

本学では、文化企画を手  
掛けているテレビ局や新聞  
社、プロダクションを訪問  
して、直接担当者から文化  
事業がどのように行われて  
きたかレクチャーを受ける  
企画「東京文化事業臨地研  
修」を実施しています。研  
修のコーディネーターは博  
物館学芸員養成課程の必修  
科目である「博物館経営論」

の講師を務めていただいで  
いる東京都江戸東京博物館  
副館長で本学客員教授の小  
林淳一氏です。

今年度の研修では、「日  
本テレビ放送網」で長年文  
化事業に携わり、現在同社  
の調査部門である日テレラ  
ボの責任者を務める中村知  
純氏からテレビ局内で文化  
事業がどの様に企画され、  
実行に移されているかにつ  
いて具体的な事例を交えて  
レクチャーを受け、その後  
実際に放送中の報道番組の  
様子を見学するという機会  
を得ました。また、「三鷹  
の森ジブリ美術館」では展  
示の担当者から、アニメー  
ション制作会社であるスタ  
ジオ・ジブリがなぜ美術館  
を運営しているのか、その  
意図を説明していただき、  
その説明を踏まえて館内の  
展示や物品販売、飲食等の  
施設を見学させていただきました。  
さらに、「東京都  
江戸東京博物館」とその分  
館である「東京都たてもの



東京都たてもの園でのレクチャー



三鷹の森ジブリ美術館にて

園」では担当する学芸員の  
方から、博物館内で開催さ  
れる企画展の意義や役割に  
ついて実例を交えて説明を  
受けることができました。

さらに、昨年の春から秋  
にかけて「ジブリエイヤー」と  
題して長崎で開催された2  
つの展覧会のボランティア  
スタッフとして本学から多  
数の学生が設営準備や運営  
に参加し、上述の東京文化  
事業臨地研修で得た文化事  
業に関する知識は、「博物  
館経営論」の授業において  
展覧会の企画書を二人一組  
で独自に作成し、討論する  
企画に結びつけることがで  
きました。

江戸時代の長崎は、西洋  
文化の情報発信地として日  
本国中から注目された都市  
でした。この町に残る豊か  
な文化、芸術遺産を新たな  
文化資源として活用するこ  
とは大変重要な課題となっ  
ています。臨地研修を通じ  
てどのように芸術文化を社  
会に伝えていけばよいか、  
その方法を会得して、将来  
にわたって長崎の地域文化  
を支える人材を養成するこ  
とを目指しています。

第7回純心高齢者  
福祉研究大会開催

地域包括支援学科 教授  
山頭 照美

秋空のもと、2017年11月25日(土)長崎純心大学において、第7回純心高齢者福祉研究大会が開催されました。この研究大会は2年に1度、純心高齢者福祉研究センター主催で、大学、近隣の社会福祉法人純心聖母会の恵の丘の施設及び同法人の施設の一つである小野田老人ホームの施設職員が一堂に会して日頃の研究成果を報告するものです。その内容を具体的に示す前に、ここで研究大会を主催している純心高齢者福祉研究センター(以下、「研究センター」とする)の設立目的と活動内容について若干の説明をしたいと思えます。

研究センターは2000年11月に設立し、2001年4月より活動を開始しています。設立目的は長崎純心大学(福祉教育・研究活動)と恵の丘の福祉施設(実践現場)が相互に連携し、



開会式の様子

さらに相互の連携・協力を組織的なものとするというもので、これは初代学園長シスター江角ヤスの思いでもありました。シスター江角は人間形成の完成を目指す教育を願い、その一つとして研究センターを作り、そこから純心福祉・純心教育を発信していきたいと考えていました。活動内容としては相互交流、高齢者に関する調査・研究などです。設立当初は毎年、講演会や研修会、事例検討会などを行っていましたが、2005年より「研究を行う上で時間が欲しい」との要望で隔年での大会開催となりました。

今回は7回目の研究大会で、テーマを「福祉の現場と学びをつなぐ〜喜ばれ必要とされる人材づくり〜」

とし、福祉現場における人材不足が大きな課題となっている現状を踏まえ、日頃から利用者の方々に喜ばれ必要とされる支援を目標に実践している各施設の取り組みを発表し、各々の福祉実践を振り返りながら「学び」と「利用者の喜び」につながる支援を見直す機会になればと考えました。

プログラムは基調講演と各施設の研究発表で、前半に4施設、後半に3施設の発表がなされました。施設の発表内容は種々あり、例えば、「減災」利用者と共に災害に対する意識を高める」や「地域へ密着した訪問介護の在り方」地域交流、2年間の記録」、「安らぎと安心を求めて」改築工事を終えて見えてきたもの」などです。各施設の



研究発表

発表から利用者が安心して幸せな生活を送るための支援の工夫や努力が垣間見えたようでした。

昼食後は長崎南山中学校・高校の校長であられる西 経一師に「聖書が教える愛と福祉」をテーマに基調講演をしていただきました。西神父様の基調講演は事例を用いながらわかりやすく説明をしていただき、真の奉仕は「人を裂く」ことで時間や痛みを伴うものであることを教えていただいたように思います。ユーモアの中にも示唆に富むお話でした。

研究発表での学びと西神父様の講話を心に留め、利用者や周囲の人々に喜ばれる支援ができるように努力することを誓いながら散会しました。



基調講演 (西神父様)

あぜべつとう  
=矢上〜畦別当〜純心大学〜シーボルト大 路線バスの旅=

平成29(2017)年4月6日長崎自動車(株)による新規路線「畦別当線」が開通しました。これにより矢上方面から通学する学生は、片道2時間以上かけていた通学時間が25分に短縮されました。

畦別当は、長年バス路線が分断されて交通手段が無いうえ、近年は高齢化が進み大変不便な地区でした。念願の路線バス開通は地域住民と純心大学の夢であり、「バス停」が道端に立つ姿は、「地域に血が通っている」風景と言えるでしょう。

現在は朝夕の1便のみですが、学生のバス利用者は徐々に増えており、今後も地域住民の方々と共にバス増便などの陳情を続け、東長崎から更に時津・長与方面の開通を目標として、学生達の通学路線の確保に取り組みたいと思っております。

“路線バスの旅 繋がりましたよ!”

学生支援課長 田口 知加子



人間心理学科

第3回人間心理学科  
主催講演会が  
行われました

人間心理学科長  
吉武 久美子



講演会会場の様子

平成29年10月28日(土)に第3回長崎純心大学人文学部人間心理学科主催の講演会が行われました。テーマは公認心理師。というのも、平成29年、心理職が国家資格になることが決まり、平成30年初めて公認心理師の国家試験が行われる予定だからです。心理学に対するこのような大きな動きの中で、心理職は今後、どの

ような役割を果たしていくことができるのかをみんなで考えたいと思い、企画いたしました。

まず、講演会では日本心理臨床学会理事長であり、この公認心理師の国家資格化にご尽力されてこられた東京福祉大学大学院の鶴光代教授が、『公認心理師の役割と未来』という題で講演くださいました。

鶴先生は、講演の前半では、実際に今、現場で心理職として働いている臨床心理士たちに向けて、煩雑な公認心理師の資格取得の方法を明確に解説してくださいました。小中学校スクールカウンセラーや、病院の心理職として働いている本学・大学院修了生たちの多くは、国家試験を受けられる見通しが立ち安堵していた様子でした。

講演の後半は、将来、公認心理師の活躍が広く期待される職域として、学校・教育分野や産業・労働分野を例に挙げお話しくださいました。心理学に関心を持ち始めた高校生たちや、心理学を専攻する大学生、院生たちにとって、心理職の未来への確信や期待がさらに膨らんだようでした。

また、講演終了後には、高校生向けに、本学説明会



講演会講師 鶴光代教授

を心理教員が行いました。

さらに、心理職として働く本学・大学院修了生たちのネットワーク作りをめざし、第一回の懇話会も企画いたしました。かつての院生時代の懐かしい顔が地域で貢献する頼もしい顔に変わっており、教員一同、嬉しく思いました。ご講演いただきました鶴先生、およびご参加いただきました皆さまに改めて御礼申し上げます。

さて、いよいよ平成30年度より本学においても公認心理師養成のためのカリキュラムが、男女共学で大学院と学部で同時に始まります。幅広い知識と技術を持ち、社会に貢献できる公認心理師の育成に努めてまいります。

講演会に参加して

人間心理学科4年

中村 有菜

私は、臨床心理士の資格取得を目標に、人間心理学科に入学しました。今まで民間資格であった臨床心理士とはまた別に、公認心理師が国家資格として認定されたことを嬉しく思う反面、今後どちらの資格取得を目指すべきなのか不安を抱いていた中、講演会の開催を知り、参加を決めました。

講演会では、幅広い領域で公認心理師の活躍が期待されることや、資格取得までの流れと今後の展望などを詳しくご説明いただいたことにより、公認心理師のイメージがつき、頭の中が整理されたように感じました。また、公認心理師の資格取得を目指したいと思っただと同時に、幅広い知識や対応力を身に付ける必要があると実感しました。そのため、資格取得に向け、勉学や実践的学びに励んでいきたいと思えます。

人間心理学科4年

田川 茜

「公認心理師の役割と未来」の中で、公認心理師の制定に至った経緯や今後求

められる資質や能力について知ることができました。また、心理士に求められる4つの業についてもお話しいただき、クライエントの援助に加えて、心理学についての情報提供も心理士の役割であることを学びました。講演を通して、新たに制定された公認心理師に限らず、心理職や対人援助職に携わる上で、心掛けるべき事柄を再確認する機会になったように思います。



大学卒業生・院修了生対象 第1回懇話会

20年目を迎えた  
Junshin Cup

英語情報学科長  
島山 均

1998年10月に第1回を開催したJunshin Cup英語オーラルコミュニケーションコンテストは今年度(2017年11月4日)、20回目のコンテストを開催しました。この20年間、この大会には長崎県を中心に佐賀県、福岡県、鹿児島県、宮崎県、山口県の高校生から1000名余りの高校生が参加しました。その数は年を追うごとに増加し、また参加していただいた高校生の英語の発表能力はレシテーション部門においてもスピーチ部門においても、この20年間で格段の進歩を見せました。英語のスピーチコンテストとしては小規模な大会ですが、この大会が20年間で量的にも質的にも充実してきたことは主催者として大変喜ばしいことです。



スピーチ(討論、朗読、演説、ディベート等)を中心とするスピーチ・コミュニケーション教育の源流は遠く古代ギリシャ・ローマの時代まで遡ることが出来ますが、我が国におけるスピーチ・コミュニケーション教育の原点は16世紀以降のイエズス会のレトリック教育の中に見出すことができます。明治時代には福沢諭吉が三田演説会などにおいてスピーチの教育訓練を実施したのですが、1980年代までは日本のスピーチ・コミュニケーション教育は「話し方教室」または

「弁論部」「E.S.S.(English Speaking Society)」と呼ばれる大学のクラブ活動の中で細々と存続し続けてきたに過ぎません。

しかし、現在、わが国の英語教育界では「伝え合う力・コミュニケーション能力」が時代のキーワードになっています。2020年度から小学校で「英語」の教科化が始まり、さらに大学入試では読む・書く・話す・聞くの4技能が試されます。英語コミュニケーション能力の育成は今や時代の急務という感を否めません。このことはスピーチ・コミュニケーション教育が自己の意見発表力と英語での表現力を訓練する方法として、その役割がますます重要となってきたことを意味します。このような教育環境の変化の中で高校生の日頃の英語学習の成果の発表の場としてJunshin Cup英語オーラルコミュニケーションコンテストが果たす教育的役割は今後、ますます大きくなっていくと考えています。より充実したコンテストにしていく所存です。

感想 (アンケートより)

生徒

- ・とても楽しかったです。暗唱課題文を理解すればするほどジェスチャーや抑揚が思い浮かびました。ぜひまた参加したいです。
- ・とても良い経験ができました。
- ・皆のレベルが高く、すごいと感じました。自分の意識改善となりました。
- ・同じ暗唱文ですが、人によって読み方が違ってとても面白かったです。スピーチでは「伝えよう」という気持ちがよく伝わってきました。会場ではリラックスでき、また挑戦したいという気持ちになりました。
- ・2回目の参加です。雰囲気が明るく、楽しめました。

引率教員

- ・楽しませていただきました。土曜日に行われていて助かりました。また来年参加したいと思います。
- ・学生の方の司会進行が新鮮でした。
- ・半日の実施になって参加しやすくなりました。実施日も模試とかぶらないので助かっています。レシテーションの課題文の内容が多様化していて面白いと感じました。

児童保育学科

「児童保育学科」から「子ども教育保育学科」へ

児童保育学科長  
石田 憲一

平成30年4月1日より、「児童保育学科」は、「子ども教育保育学科」へ名称が変わります。

本学において保育者の養成は、1940（昭和15）年の「純心保母養成所」開設にさかのぼり、約80年の歴史を有しています。「保育」は、日本では社会的にも就学前教育を表す言葉として重要な意味を与えられ、法律上も、幼稚園におけることもへの働きかけを意味する用語として用いられてきました。本学でも、これまで通り「保育」を重視し、理論と実践の両面における研究を深めていきたいと考えています。

学科名にあった「児童」という語については、日本では特に学齢児童、すなわち小学校に在学している子どもを強く連想させる言葉であるため、乳幼児からの子どもの成長・発達を視野に置く本学科の名称に用い

るのはどうかという意見が従来よりありました。その点、「保育」の語を学科名に維持しつつ、従来の「児童」を「子ども」に言い換えれば、意味的な広がりを与えられ、何より、言葉の響きが醸し出す柔らかさによって、子どもの持つ未知なる可能性を表現できるというメリットがあると考えました。

ところで、本学では「短期大学部保育科」（2006年（平成18）年3月まで存続）の時代より、保育士資格と幼稚園教諭二種免許の取得が可能でしたが、2003（平成15）年、高度に複雑化した児童の保護・教育を担う人材の養成を目指して四年制大学としての「児童保育学科」を開設してからは、保育士資格幼稚園教諭一種免許状に加え、小学校教諭一種免許状の取得が可能な学科となりました。小学校教員免許状も取得できるようにしたことについては、2001（平成13）年から文部科学省がスタートさせた「幼児教育振興プログラム」の中で、幼稚園と小学校の両方の免許を持つ教員を増やす計画が示されたことが大きなきっかけとなりました。

以来、これまでに児童保育学科が輩出してきた小学



保育所一日体験

校教員は130名以上（内正規採用77名）にのぼります。2016（平成27）年度からは、学生の将来設計と進路に合わせた、より専門性の高い指導を行うことを期して、「保育士・幼稚園教員養成コース」と「小学校教員養成コース」の2コース制を明示的に打ち出し、現在に至っています。

しかし、小学校教諭免許状が取得できる日本国内のすべての大学の学科名・コース名を俯瞰したとき、「児童保育学科」という名称は、必ずしもこの点が明示された学科名とはなっていませんでした。そこで、このたび「教育」という語を学科名称中に新たに加えることにより、学外に対し、小学校教員養成のコースを有する学科であることをより鮮明に示したいと考えました。このことは「保育」

の語によって本学科のルーツと良き伝統をアピールすることと同じく大切であると思っています。

それとともに、子どもにとっての学びの一貫性を大切にしながら、小学校での教育のあり方を考えるときには、保育園、幼稚園での保育・教育のあり方を踏まえること、あるいは逆に保育園、幼稚園での保育・教育のあり方を考えるときには、小学校での教育のあり方を踏まえることの重要性を再認識しています。

明治期以来、小学校、幼稚園、保育所の成立、展開の過程は、それぞれ制度的に別々の道を辿りました。そのため、長きにわたり特に小学校と幼稚園での実践や研究は、それぞれで行われてきたように思います。

子どもの発達と学びの一貫性を大切にするという視点から、幼稚園、保育所、小学校での学びのための保育者、教師の働きかけのあり方はどうあるべきかについての実践や研究が特に求められていると認識しており、今後、さらにこのテーマを追究していきたいと考えています。「教育」「保育」と言葉を並べたのは、こうした方針の表れでもあります。

新幼稚園教育要領は2018（平成30）年度から、

新小学校学習指導要領は2020（平成32）年度から全面実施の予定です。幼稚園での学びと小学校の学びとの「つながり」が、これまで以上に重視された内容になっています。また、教育要領、学習指導要領の改訂と実施に合わせ、教職課程コアカリキュラムの導入が予定されています。こともを、主体的で深い学びに向かわせるために、保育者、教師の働きかけは、いかにあるべきか。その力を学生が身に付けることができるよう、これまで以上に「子ども教育保育学科」の教職員一人一人は研鑽を積んで参ります。



平成29年度 エキシビジョン

明日の公認心理師を  
育てる

—新しい国家資格  
に対応して—

人間文化研究科 教授  
人間心理学科長  
吉武 久美子

いよいよ地域包括支援学  
科に、心理学・カウンセリング  
コースが始まります。  
心理学に公認心理師という  
国家資格が作られることが  
決まったことから、よそに  
先駆け、本学では、平成30  
年4月から公認心理師を養  
成するカリキュラムを始め  
ることになりました。男女  
共学です。これまでも、長  
崎県の中で唯一、臨床心理  
士を養成していた本学に、  
男女にかかわらず心理学を  
専門に学べる場を作ってほ  
しいという多くの声を耳に  
してきました。このような  
社会の要請に応え、平成30  
年4月から、男女共学で、  
本格的に心理学を専門に学  
べる場ができます。これに  
より、教育の現場で、本学  
は、さらに強い実践力を発  
揮することでしょう。

例えば、文化コミュニケー  
ション学科や子ども教育保  
育学科を出た卒業生は、中  
学校や小学校の教師になり  
ます。そこに、地域包括支  
援学科の卒業生が、心理学  
と福祉の国家資格を携え、  
スクールカウンセラーやス  
クールソーシャルワーカー  
となって入っていくのです。  
まさに、一つのキャンパス  
で育まれた絆が花開き、本  
学の3つの学科の卒業生た  
ちが、スクラムを組んで未  
来の子どもたちをしっかりと  
支えていくのです。

さらに、学部と同時に、  
大学院でも公認心理師の養  
成を始めます。これまでも  
長崎純心大学・大学院は、  
長崎県で唯一、臨床心理士  
を輩出してきました。現在、  
長崎県で活躍する臨床心理  
士の多くが本学関係者です。



院でのグループワーク

また、長崎県内の小中学校  
においても本学の大学院修  
了生がスクールカウンセラ  
ーとして、子どもたちに  
寄り添って支援しています。  
このような実績をもつ本学  
大学院が公認心理師の養成  
に取り組むことにより、学  
部と大学院での充実した一  
貫教育が完成し、質の高い  
公認心理師を育てること  
になります。

さて、公認心理師は国家  
資格であるため、大学院で  
は、福祉、医療、教育、司  
法、産業など幅広い領域に  
おける心理的支援の方法を  
学ぶことが求められます。  
これら広い分野にわたる心  
理的支援の学びにおいて、  
本学は、さまざまな強みを  
持っています。

一つには、大学としては  
珍しく原爆老人ホームなど  
の歴史ある4つの福祉施設  
が徒歩圏内にあり、福祉の  
分野で先駆的な大学である  
ことです。二つ目に、教育  
現場として、大学付属の認  
定こども園や、系列の中学  
校、高校があります。また、  
三つ目に、産業分野でも、  
本学の地域連携センターに  
おいて、官公庁をはじめと  
する組織や企業でのメンタ  
ルヘルスに関わって産業カ



箱庭を用いた院の講義

習だけでなく、学内でも実  
際のケースを担当しながら  
指導を受け、実践力を高め  
ていくことができます。さ  
らに、この心理教育相談セ  
ンターには、本学心理教員  
だけでなく、外部の経験豊  
富なカウンセラーや修了生  
たちが委託相談員やスー  
パーバイザーとして院生た  
ちの教育をバックアップし  
てくれます。

ウンセララーの役割を果たし  
ています。また、四つ目に  
医療分野でも、長崎大学医  
学部との強い連携により、  
学部において福祉と医学の  
学生たちが共に学びあう共  
修プログラムという先駆的  
な取り組みをしています。  
このように、幅広い領域に  
おいて連携と実践を重ねて  
きた教員たちと、関係施設  
の方々がいるのです。彼ら  
が大学院の公認心理師教育  
を支えてくれ、心理学の院  
生たちの学びを充実させて  
くれます。

また、今回、公認心理師  
のカリキュラムでは、45  
0時間という大変多くの実  
習を学内外で実施すること  
が特徴となっていますが、  
本学は、キャンパス内に心  
理教育相談センターがあり  
ます。院生たちは、学外実

最後に、4年後には、本  
学の地域包括支援学科で正  
規の公認心理師のカリキュ  
ラムを履修して心理学と福  
祉の両方を学んだ学生が、  
大学院に入ってくる予定で  
す。学部で精神保健福祉士  
あるいは社会福祉士という  
福祉の国家資格を取得し、  
大学院では公認心理師の国  
家試験の受験資格を取得す  
るのです。すなわち、それ  
は、福祉と心理という、異  
業種の国家資格を両方持つ  
高度な専門家となります。  
長崎純心大学から生まれる  
この貴重な人材が、小学校  
や中学校などの教育現場で  
また、医療、産業、福祉な  
どさまざまな分野で、異業  
種の連携のまさに「要」の  
役割を果たすことが期待さ  
れます。